



## 病院図書室における蔵書管理

山室 眞知子

### I. はじめに

病院図書室の利用者にとって魅力あるサービスとは、迅速な文献調達、巧みな文献探索、的確なレファレンスの回答などが挙げられる。しかし利用者に頻繁に図書室へ足を運んでもらえるかどうかは資料のコレクションの如何にもよるのではないだろうか。「図書室へ行けば何か資料が…」という利用者の期待を裏切らないために、われわれは蔵書構成にもっと関心を持たなければならないと思う。

しかし病院図書室では、図書館員に選書する予算と時間の余裕がないのが現状である。病院によっては各科別に予算が決められて選書されるという例や、図書委員によって選択される例もあるが、司書の選書によって蔵書構成を整えていくという機会には恵まれにくい。しかし、利用者が共通して必要とされる医学・一般語学辞書など、どこからも購入希望が出されない分野の資料については、図書館員が配慮して何らかの形で選書に参加しなければならない。

利用の期待に応えられる蔵書構成を維持していくためには、資料の購入予算の確保、収納スペースの確保、資料の偏りのない選書が必要である。さらにそのアフターケアともいべき蔵書の見直しが必要であり、改訂版の買い替え、リタイア資料の処理という図書館員の蔵書管理が必要である。蔵書構成はそれぞれの図書室の実状にあわせて行われなければならないが、当図書室で行っている例を挙げながら蔵書管理について述べたい。

### II. 選書

当院図書室での選書の基本目的は、病院の疾病構造の特徴をつかんだ選書を計画的に行うこと、また利用者が必要とする資料を中心として購入することである。

#### 1. 選書の基準

当院では「選書基準」という明文化されたものはない。しかし図書委員会での選書基準は①図書室蔵書の基準とするのは各分野の成書といわれるテキスト類をそろえる、②購入希望の図書は図書委員会で検討し、その分野の専門医・専門職の評価を参考とする、③特定の利用者でなく、多くの人に利用される資料であること、④購入した資料は図書室に常備する（長期貸出・部署の備本にはしない）、⑤選定された資料の改訂版は継続する、⑥資料購入予算は科別に分配しない、となっている。

#### 2. 選定者

購入希望図書は各科からの希望と個人からの希望を図書室で受け付けている。司書は所蔵されていないことを確認し、原則として見計らい図書を取り寄せて図書委員会または図書委員長と専門医の評価のもとに購入を決定する。

#### 3. 図書館員による選書の判断基準

##### (1) 改訂版の購入

医学書においては、内容変更による改訂版が次々と発行されるので、よく利用されている資料は可能な限り最新版を備えている。従って図書館員は図書ラベルに明記されている発行年を見ながら常に出版情報を把握して、改訂版発行の有無確認を行っている。

5年以上経過して改版されている場合や、

「Harrison's Principles of internal medicine」、  
「Cecil Textbook of Medicine」のテキストのよ  
うに一定の年数を経て改版されるものにつ  
いては継続的に購入するが、1～3年毎の改訂版や、  
改版の主旨が明確でない場合にはその都度その  
専門分野の医師の意見も参考にして、図書委員  
会の承認を得て購入している。

(2) 選書から欠如した分類項目の補充

利用者からのリクエストや、参考業務を通し  
て不足な資料を発見することも多い。その時必  
要な資料が1冊も所蔵されていなかったり、関  
連分野の図書が欠如したりしている場合には、  
出版目録から数冊の関係図書を取り寄せて、図  
書館員から図書委員またはその分野の専門医・  
専門職に選書を依頼し、図書委員長決済で購  
入することもある。出版目録からは出版年が新し  
く、版を重ねて出版されているものや出版社を  
対象にして選ぶ。各主要な分類項目にはたとえ  
1冊でも最も標準的なテキストが必要と考  
える。

(3) 辞書類・参考図書の選択

利用者から図書室には当然あるであろうと考  
えられる医学関係の医学辞書・事典類、医学二  
次資料、医学参考図書、そして一般的な広辞苑、  
英和・和英、独和・和独辞典や、スペイン語・  
フランス語・韓国語などの辞書が蔵書から欠落  
しやすい。医師の辞典類の利用は、医学辞典類  
よりもこうした一般用語の辞書の方が多い。

また医師以外の医療スタッフのための看護辞  
典、看護マニュアル、検査・放射線科のスタッ  
フのための便覧類などの必要性は、利用者の利  
用状況を把握している図書館員以外にはわから  
ない。

資料の選択は図書館員の専門業務であるの  
で、これらの資料に関しては図書館員の責任と  
して選択し、図書委員会やその他購入決定の場  
に提案すべきであろう。図書室の常備図書とし  
てこれら資料の購入予算を確保したい。

(4) 基礎医学図書の見落とし

病院図書室では自ずと臨床医学分野の図書が

中心となり、とかく基礎医学図書が旧版のまま  
放置されがちである。基礎医学関係の図書の所  
蔵状況は必要に応じて図書館員から検討事項と  
して提案して改善を試みたい。

Ⅲ. 蔵書点検と蔵書管理

公共図書館のように閉館日を設けられない病  
院図書室での一斉の蔵書点検は難しい。従って  
日常業務の収納作業の中で常に行うしかない。

ほとんど利用されていない古い年代の図書は  
別置して新しい年代の図書、および利用が多い  
図書に限られたスペースを譲らねばならない。  
病院図書室の場合は1980年代の医学書は臨床に  
はほとんど利用されないであろうが、図書の場  
合は内容が古くなっていても資料として保存す  
べき貴重本もあり、雑誌の場合のように出版年  
を基準として廃棄を決定することはできない。

1. リタイア図書、廃棄基準

(1) リタイア図書

古い年代の出版でほとんど利用されなくな  
った図書が貴重なスペースを占めていることによ  
り、新しい図書が目立たなくなり利用者のイ  
メージダウンになることも考慮したい。特に医  
学書には改訂が頻繁に行なわれるものや、刷も  
重ねずそのまま絶版となってしまうものなど  
があり、新しい図書にスペースを譲るためにも利  
用されなくなった図書はリタイア図書として別  
置したい。当図書室におけるリタイア図書と判  
断する基準を表1にまとめてみた。

表1. 図書・雑誌の評価の基準

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 出版年が1985年以前で、それ以後増刷も改訂もされない図書。 |
| 2. 1985年以後一度も利用されなかった図書。          |
| 3. 前々の改訂版（例：最新版が第4版の場合の第2版）       |

(2) 除籍と除籍基準

頻繁に利用されて破損もしくは汚損した資料  
がまず破棄の対処とされるが、現在継続して利

用されている図書については買い替えが必要であり、看護関係図書に多く見られる。

また、一定期間リタイア図書として別置されているものの中から、除籍として支障がないと判断されたものとしている。

#### Ⅳ. まとめ

病院図書室では、最新の医学情報を提供する外国雑誌を主とした雑誌・逐次刊行物と検索用データベースなどの購入が優先され、わずかな購入図書予算は医師の希望と選択が優先されがちである。蔵書の偏りを避け、医師以外の利用者にとっても役立つ図書室であるためには、偏りのない資料の収集が不可欠であり、図書館員の責任であろう。

それは家族の食事管理を任された主婦の役目に例えられないだろうか。家族一人一人の好みだけの献立では健全な健康管理は保てない。家族が健康的に活動できるためには、バランスのとれた栄養管理が必要であり、それには主婦の家計に見合った食材の選択が何より必要である

ということと同じと考えられる。即ち、役立つ図書室としての評価を得るためには、図書館員も資料の選択に参加して蔵書構築を行っていく必要がある。なぜなら、期待する資料にありつけなかった利用者の失望と、資料の不足のために利用者の要求に応えられなかった責任を痛感するのは図書館員だからである。

#### 参考文献

- 1) 押田いく子：大学図書館の蔵書構築．薬学図書館．1995；40 (3)：223-8.
- 2) 押田いく子：〈身につけよう！医学図書館員の基礎知識〉書架管理．医学図書館．2001；48 (1)：42-3.
- 3) 園田国昭：〈身につけよう！医学図書館員の基礎知識〉選書．医学図書館．2001；48 (1)：46-7.
- 4) 多田一男：これからの大学図書館における資料保存の必要性と資料保存の取り組みへの関心の喚起；医学図書館．2001；48 (4)：356-62.